

5月講演会の報告

日本を取り巻く環境 ～日本再生に何をなすべきか～

5月11日、ルナ・ホールにて、麗澤大学特別教授、元空将の織田(おりた)邦男(くにお)氏による「日本を取り巻く環境」と題した講演が行われました。



混迷を極める国際情勢。ロシアによるウクライナ侵攻、緊張が続く台湾海峡情勢、そして不安定化する中東情勢など、世界は大きく揺れ動いています。こうした激変する国際環境の中で、日本を取り巻く安全保障環境もかつてないほど厳しさを増しています。

日本の平和と安全に関わる問題はもはや遠い世界の出来事ではなく、日本再生に何をなすべきかが問われています。講演の要旨は次のとおりです。

参加者数は153名、担当は企画G、39期でした。

1. 航空自衛隊での40年

私は幼い頃から「戦闘機パイロットになりたい」という夢を持っていました。当時の高校では安保闘争の影響もあり、教師からは強く反対されましたが、それでも志を貫き、防衛大学校に進みました。防大では徹底的に鍛えられ、卒業後はF-4、続いてF-15のパイロットとして飛びました。

40歳の頃には、日本版トップガンとも言える戦技教育課程を修了しました。部隊長として260名ほどの隊員を率いた時期もあります。アメリカのスタンフォード大学に留学した経験もあり、国際的な視野を持つことの重要性を痛感しました。



F-15J イーグル

2. 中東派遣で見た世界

その後、航空幕僚監部で防衛部長を務め、イラク派遣では航空部隊指揮官として延べ210名の隊員を率いました。砂漠の上を飛ぶというのは、日本では想像できない世界です。緑のない荒涼とした大地、宗教と部族が複雑に絡む社会、女性が一人で外を歩けば命の危険がある現実。そうした環境に触れることで、世界の不安定さを肌で理解しました。

派遣を終えて、防衛大臣に部隊旗を返還する儀式を行ったとき、「無事に任務を終えた」という実感がこみ上げてきました。

中東では、各国軍の将校から「日本の自衛官はなぜ脱走兵が出ないのか」「軍法会議もないのに、なぜ規律が保たれるのか」と驚かれました。私は「サムライ・スピリットだ」と答えました。日本人には本来、強い公共心と使命感があるのです。

3. 現在の国際情勢——戦後最大の危機

さて、今の国際情勢ですが、私は「戦後最大の危機」だと考えています。ロシア、中国、北朝鮮という三つの独裁国家が日本を取り囲み、いずれも核兵器を保有、あるいは開発しています。北朝鮮は「日本列島を海に沈める」と公言していますし、中国は台湾への圧力を強めています。ロシアはウクライナ侵攻を続けています。

さらに、中露の爆撃機が日本周辺を共同飛行していますが、日本のメディアはほとんど報じません。世界の紛争は互いに連動しています。中東、ウクライナ、台湾、北朝鮮。これらが連鎖すれば、世界規模の戦争につながりかねません。



4. アメリカの「力の空白」

危機を深刻にしているのがアメリカの「力の空白」です。中東情勢の悪化で米軍の多くが中東に移動し、アジア太平洋地域の抑止力が低下しています。

アメリカの弱体化は2013年、オバマ大統領が「アメリカは世界の警察官ではない」と宣言したことから始まりました。その半年後にクリミア併合が起き、南シナ海の埋め立ても進みました。アメリカが秩序維持から手を引けば、独裁国家は必ず行動します。習近平が台湾に侵攻しても不思議ではありません。

5. 抑止力とは何か

抑止とは何か。私はこう説明しています。「殴られたら殴り返す能力と意思を持ち、それを相手に信じさせること」。能力だけではダメで、意思だけでもダメです。相手が「攻めたら

痛い目に遭う」と確信して初めて抑止は成立します。ウクライナの例を見ても、戦う意思を示さなければ侵略は防げません。

6. 日本の弱点——国民の覚悟

日本の最大の問題は「国民の覚悟が弱い」ことです。国際調査で「自国が侵略されたら戦うか」と問われたとき、日本は世界最低の13.2%でした。これは抑止の観点から極めて危険です。「この国は攻めても大丈夫だ」と思われてしまうからです。

私が大学で講義をすると、初回は「戦う」と答える学生は15%ほどですが、講義を終えると90%が「何らかの形で国を守る」と答えるようになります。若者は正しい教育を受ければ必ず変わります。

7. 教育の問題と若者への提言

日本の教育の最大の問題は、「目的を持ってない若者が増えている」ことです。人生の目的を書けない学生が40%。不登校は35万人、引きこもりは146万人。これは国家の基盤が揺らいでいる証拠です。自衛隊の教育は、公（おおよけ）を優先し、仲間と命を預け合う厳しい環境の中で若者を大きく成長させます。特別な若者が入ってくるわけではありません。鍛えれば誰でも変わるのです。

8. 教育の核心

教育の核心は、「公を重んじる価値観」を取り戻すことです。国旗や国歌への自然な敬意、国家と個人との関係を理解する教育、奉仕活動、介護や清掃などの体験教育、安全保障を「自分ごと」として考える力。トーマス・ジェファースンはこう言いました。「最大の国防は、よく教育された市民である」。まさにそのとおりです。



質疑応答

【質問1】日本はNATOに加盟できるのでしょうか？

日本は地理的に北大西洋条約機構（NATO）の枠外にあるため、加盟は現実的ではありません。しかし、NATO 諸国との共同訓練や連携を深めることは、抑止力として極めて重要です。民主主義国家同士の協力は今後さらに必要になっていくでしょう。

【質問2】三島由紀夫の最期をどう思いますか？

防衛大学校に入学した年に事件が起きたため、当時は深く理解していませんでした。しかし後年、三島が遺した「自衛隊は自らを否定する憲法を守るのか」という言葉が強く心に残りました。憲法と自衛隊の間に生じている矛盾は、今もなお続いています。

【質問3】 中国空軍と航空自衛隊が交戦したら勝てるでしょうか？

中国は機数こそ多いですが、質や練度においては日本が上回っています。ただし、長期戦や遠距離戦になった場合は不利になる可能性があります。中国側は「日本人は特攻精神を持っている」と恐れており、それが一つの抑止力として機能しています。

【質問4】 北朝鮮の極超音速兵器に対処できますか？

現状の日本の防空システムでは、迎撃は困難であると言わざるを得ません。ただし、現在は日米の間で対処技術の開発が進められています。

【質問5】 核武装についてどう考えますか？

「核アレルギー」によって議論すら封じられている現状は問題です。核廃絶は理想ですが、それが実現するまでの間にいかにして日本を守るか、その手段を議論すべきです。核共有、特に潜水艦での運用などは、選択肢として検討の余地があるでしょう。

【質問6】 戦闘機パイロットと宇宙飛行士の違いは？

両者には共通点が多く、戦闘機パイロットとしての経験は宇宙飛行士になる上で有利に働きます。ただし、現在の日本では軍籍つまり自衛官の身分を離れなければならない、制度面の改善が必要です。

(広報 G 兵東 勇)

